

令和7年2月期 決算説明資料

岡谷鋼機株式会社

令和7年3月31日

1. 連結経営成績
2. 連結財政状態
3. 連結キャッシュ・フローの状況
4. 連結業績予想
5. 株主還元
6. 設備投資
7. トピックス

1. 連結経営成績

- ・連結売上高は前期比98億円増の1兆1,217億円
- ・純利益は前期比34億円増の270億円
- ・当期末における連結関係会社数は100社（国内48社、海外52社）

単位：億円

	令和6年2月期	令和7年2月期	前期比増減（増減率）
売上高	11,119	11,217	+98(+0.9%)
売上総利益	849	932	+83(+9.8%)
販売費及び一般管理費	524	558	+33(+6.4%)
営業利益	324	373	+49(+15.3%)
経常利益	358	419	+60(+16.9%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	236	270	+34(+14.4%)
1株当たり 当期純利益	1,229.59円	1,406.86円	+177.27円
期末人員	5,626名	6,477名	+851名

※1 単位未満を切捨てて表示しており、増減額が一致しないことがあります。

※2 当社は、令和6年9月1日を効力発生日として、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施しております。
これに伴い、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり当期純利益を算定しております。

連結子会社数	75社	78社	+3社
持分法適用会社数	19社	22社	+3社

1. 連結経営成績<推移>

■ 上期 ■ 下期

単位：億円



※1 令和5年2月期の期首より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用しております。

※2 単位未満を切捨てて表示しており、合計額が一致しないことがあります。

1. 連結経営成績<セグメント別>

- < 鉄 鋼 > 鉄鋼は建材関連、特殊鋼は産機・建機及び自動車の各分野で低調。海外はアジア向けが減少
- < 情報・電機 > エレクトロニクスは情報インフラ関連、非鉄金属は環境配慮型材料が増加
- < 産業資材 > メカトロは自動車関連設備及び航空機向け部材が増加。化成品は堅調
- < 生活産業 > 配管建設は新たに設立した子会社の影響等で増加。食品は水産物が増加

鉄鋼 (鉄鋼、特殊鋼)

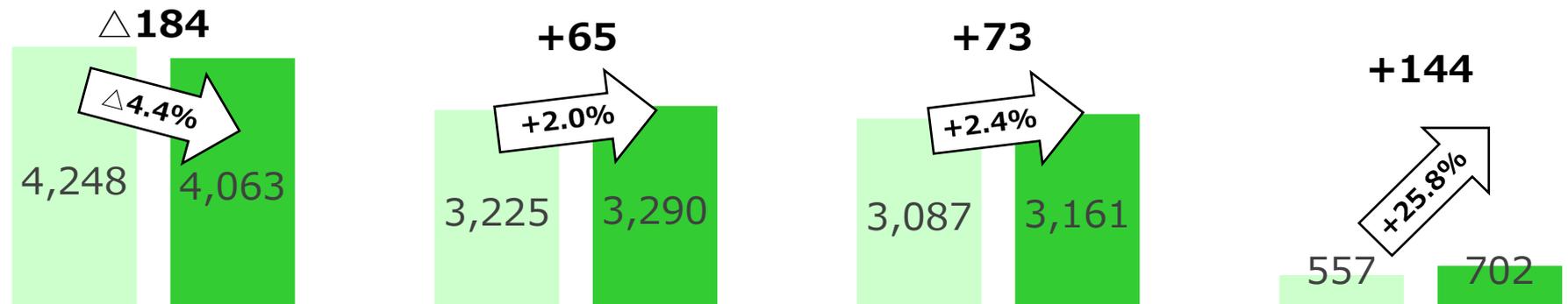
情報・電機 (エレクトロニクス、非鉄金属)

産業資材 (メカトロ、化成品)

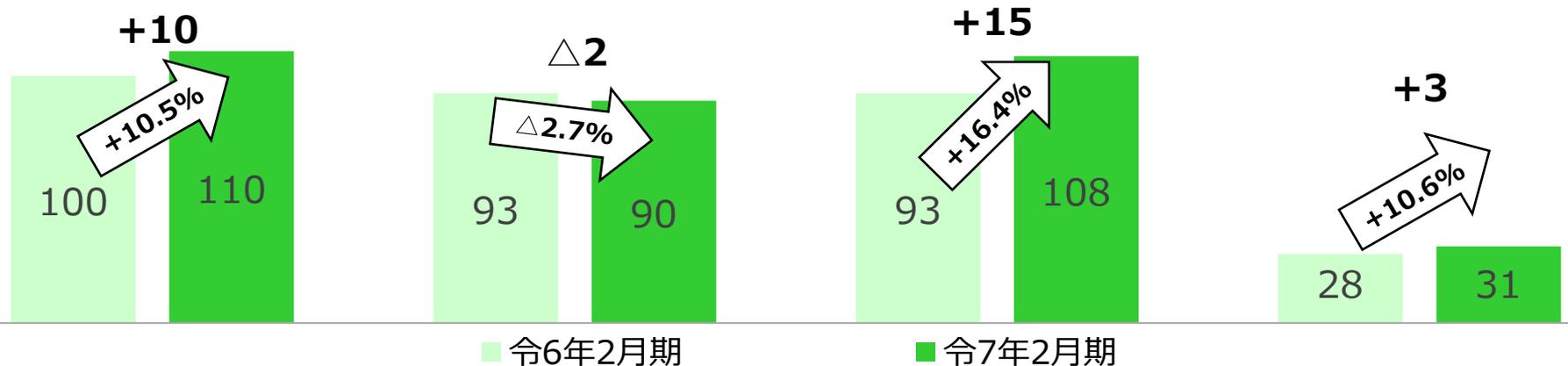
生活産業 (配管建設、食品)

(単位：億円)

<売上高>



<営業利益>



■ 令6年2月期

■ 令7年2月期

1. 連結経営成績<売上高内訳>

- ・主に情報・電機セグメントにおいて輸入取引が増加し、海外取引比率は1.6ポイント増の35.0%
- ・向け地別では国内・欧米他向けが増加の一方、アジア・中国向けが減少

単位：億円

取引形態別		令和6年2月期		令和7年2月期		前期比増減	
		金額	構成比	金額	構成比	金額	増減率
取引形態別	国内取引	7,405	66.6%	7,292	65.0%	△113	△1.5%
	海外取引（*）	3,714	33.4%	3,925	35.0%	+211	+5.7%
	合計	11,119	100.0%	11,217	100.0%	+98	+0.9%
向け地別	国内向け	7,911	71.2%	8,072	72.0%	+160	+2.0%
	アジア向け （中国除く）	1,341	12.1%	1,314	11.7%	△26	△2.0%
	中国向け	719	6.4%	630	5.6%	△89	△12.4%
	欧米他向け	1,145	10.3%	1,199	10.7%	+53	+4.7%
	合計	11,119	100.0%	11,217	100.0%	+98	+0.9%

※単位未満を切捨てて表示しており、増減額が一致しないことがあります。

*海外取引＝海外売上高に輸入品売上高を加えたもの

2. 連結財政状態

- ・当期末の総資産は前期末比241億円増の8,611億円
投資有価証券評価差額が減少した一方、配管機器事業の子会社設立により増加
- ・自己資本比率は1.6ポイント減の44.5%

単位：億円

	令和6年2月末	令和7年2月末	前期比増減
総 資 産	8,370	8,611	+241
(流 動 資 産)	4,746	5,080	+334
(有 形 固 定 資 産)	620	784	+163
(投 資 有 価 証 券)	2,415	2,207	△208
(そ の 他 の 固 定 資 産)	587	539	△47
負 債	4,326	4,585	+258
(流 動 負 債)	3,348	3,490	+141
(固 定 負 債)	978	1,094	+116
純 資 産	4,043	4,026	△16
自 己 資 本 比 率	46.2%	44.5%	△1.6%
有 利 子 負 債	1,550	1,916	+366

※単位未満を切捨てて表示しており、増減額が一致しないことがあります。

3. 連結キャッシュ・フローの状況

- ・営業CFは、売上債権の増加はあったが、利益計上等により44億円の収入超過
- ・投資CFは、事業の拡大投資や設備投資の増加により377億円の支出超過
- ・財務CFは、借入金の増加等により、313億円の収入超過

単位：億円

	令和6年2月期	令和7年2月期	前期比増減
営業活動による キャッシュ・フロー	265	44	△220
投資活動による キャッシュ・フロー	△77	△377	△299
財務活動による キャッシュ・フロー	△198	313	+512

現金及び現金同等物 の期末残高	167	148	△19
--------------------	-----	-----	-----

※単位未満を切捨てて表示しており、増減額が一致しないことがあります。

4. 連結業績予想

労務費・物流費等のコスト上昇に加え、各国による関税政策等の影響が懸念される中、下記数値を見込んでおります

単位：億円

	令7/2期 実績	令8/2期 予想	前期比増減	
			増減	増減率
売上高	11,217	11,000	△217	△1.9%
営業利益	373	340	△33	△9.0%
経常利益	419	380	△39	△9.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益	270	250	△20	△7.6%
1株当たり当期純利益	1,406.86円	1,299.27円	△107.59円	△7.6%

5. 株主還元

当社は、株主に対する利益還元を企業経営の重要政策の一つと考えており、競争力を維持・強化して株主資本の充実に努めつつ、配当を行うことを基本方針としています

□配当予想

単位：円

	令和4年2月期 実績	令和5年2月期 実績	令和6年2月期 実績	令和7年2月期 実績	令和8年2月期 予想
第 2 四 半 期 末	57.5	60.0	62.5	67.5	75.0
期 末	60.0	62.5	67.5	75.0	75.0
年 間 配 当	117.5	122.5	130.0	142.5	150.0

※ 令和6年9月1日を効力発生日として、普通株式1株を2株とする株式分割を実施しております。

※ 表に記載の配当は、令和4年2月期に遡り調整（分割前配当×1/2）した金額を記載しております。

□株主優待（一般株主様向け優待）

優待内容	保有株式数	権利確定日	発送時期
愛知県産米 山の幻ミネアサヒ 5Kg	200株以上	2月末	4月下旬
	400株以上	8月末	10月下旬

※ 令和6年9月1日を効力発生日として、普通株式1株を2株とする株式分割を実施しております。

□株主優待（長期保有株主様向け優待）

優待内容	保有株式数	権利確定日	発送時期
図書カード 2,000円相当	200株以上	2月末	4月下旬
		8月末	10月下旬

※ 一般株主様向け優待に加え、半期毎(2月末及び8月末)に発行される最終株主名簿に、同一株主番号で連続6回以上記載されていることを条件として贈呈いたします。発送は通常の株主優待とは別送となります。

※ 令和6年9月1日を効力発生日として、普通株式1株を2株とする株式分割を実施しております。

6. 設備投資

- ・令和7年2月期の設備投資額は賃貸用資産やシステム関連を中心に115億円
- ・令和8年2月期は工場設備投資の増加等により145億円を計画

単位：百万円

	令和7年2月期 (実績)	令和8年2月期 (予定)
設備投資額	11,546	14,500
<主な内容>		
物流倉庫 増改築等	694	1,420
賃貸用資産 設備	3,856	2,640
事務所設備・土地等	1,219	710
工場設備 (海外)	310	1,800
工場設備 (国内)	1,112	2,330
金型	783	810
システム関連	3,205	4,290
車両運搬具	191	330
その他	176	170
減価償却費	5,545	5,928

7. トピックス

年月	内容
令和6年 3月	健康経営優良法人 2024 認定 4年連続で、「健康経営優良法人2024（大規模法人部門）」に認定されました。グループ各社も認定に向けた取り組みを行い、国内全ての連結子会社が認定されました。
4月	岡谷鋼機名古屋公会堂 ネーミングライツ開始 名古屋市公会堂の愛称「岡谷鋼機名古屋公会堂」の使用が4月1日より開始されました。国の登録有形文化財でもある同施設の保護ならびに地域の芸術文化の振興、福祉の向上に貢献してまいります。
7月	チャリティーコンサートの開催 12回目となる「OKAYAチャリティーコンサート 2024 ～感謝の夕べ～」を開催しました。チケット売上金とマッチングギフト、来場者からの募金を合わせ、約380万円を愛知県共同募金会へ寄付しました。
8月	桑名金属工業株式会社 設立 株式会社プロテリアルの配管機器事業を譲り受け、8月1日より事業を開始しました。伝統と信頼のある同事業を継承し、ものづくりを通じて社会インフラの整備に貢献してまいります。
10月	日鉄電磁岡谷加工株式会社 工場建屋竣工 電磁鋼板の加工・販売拠点として設立した合併会社の工場建屋が10月に竣工しました。日本製鉄株式会社の低CO ₂ 鋼材「NSCarbolex [®] Neutral」を建築鉄骨用途で初めて採用しました。今春、量産を開始します。

7. トピックス

年月	内容
令和7年 1月	米国岡谷鋼機会社 レキシントン支店グリーンズボロ事務所 開設 米国岡谷鋼機会社は、電動車関連を中心とする取引拡大を目指し、車載用電池工場の新設など電動車関連の大きな投資が推進されているノースカロライナ州グリーンズボロ市に事務所を開設しました。
1月	ベトナムでのシステム開発会社 設立 主にシステム開発事業を行う「FA SYSTEM & TECHNOLOGY VIETNAM Co., Ltd.」をハノイ市に設立しました。海外機能を強化し、ASEAN地区での自動化・省人化ビジネスの拡大を図ってまいります。
2月	CDP2024「気候変動」で「B」スコア獲得 CDP（Carbon Disclosure Project）「気候変動」の分野で、8段階評価の上から3番目となる「B」スコアを獲得しました。今後も環境関連の情報開示を適切に進めてまいります。
令和6年 4・8・11月 令和7年 2月	義援金寄付 国内外グループ会社とともに、台湾東部地震、令和6年7月山形県大雨災害、令和6年能登豪雨災害、米国カリフォルニア州大規模山火事による被災者に対し、義援金を寄付しました。

□注カテーマ

〈成長市場として、インド・マーケットで現地ビジネスを強化〉

2007年にインド岡谷鋼機会社を設立し、現在4拠点、約80名体制で取り組んでおります。
従来の日系自動車メーカーのサプライチェーン構築に加え、更なるビジネス拡大を目指してまいります。

ものづくりに貢献する
グローバル最適調達パートナー
岡谷鋼機株式会社

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する予測は、現時点において一般に認識されている経済・社会等の情勢および、当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、実際の業績等は様々な要因により変更される可能性があります。当社は新しい情報、将来の出来事に基づきこれらの将来予測を更新する義務を負うものではありません。